

No. J01	まっちゃん	年月日	令和5年5月18日(木)
---------	-------	-----	--------------

設問

[問い1] 今だったらどんな質問ができるか

- 1、もし高田さんが正社員になって、休日出勤が増えるとどのように感じられるでしょうか？
- 2、正社員の話をした上司については高田さんご自身はどのように考えられているのでしょうか？
- 3、ホームセンターの仕事について、今現在どのような思いを持たれているのでしょうか？
- 4、お母様から今後の仕事についてのことを伝えられた際、どのように感じられましたか？
- 5、正社員のお話はいつまでに上司に回答しなければならないという期限は設定されていますか？
- 6、お芝居のどのようなところに高田さんは心を動かされたと感じられたのでしょうか？

[問い2] 良かった点と悪かった点 (各2行)

事例Ⅰの CCt8 (相応しい・相応しくない)

(良) 相談者が正社員の登用による労働時間の増加によって舞台演技を辞めなければならないかもしれないという感情に焦点を当てて傾聴することで、相談者との信頼関係を冒頭に比べて構築できた。

事例Ⅱの CCt9 (相応しい・相応しくない)

(悪) 相談者の今更という感情と正社員になった場合の仕事内容や労働時間の増加がどのような影響を与えると考えているのかをお伺いすることができなかった為、今後の展開に影響がでてしまっていた。

「問い3」クライアントの主訴
CC視点の問題

相談者はホームセンターの仕事を舞台の芝居にも活かせる仕事であると思っているが、正社員になると残業や休日出勤が発生し、芝居ができなくなってしまうという思い込みをしている可能性がある為、正社員の仕事に関する仕事理解不足があると考えられる。また、相談者は舞台俳優を学生の頃から現在まで、仕事のように当たり前続けてきた為、どうして舞台をしたいのか考えたこともなかったという発言より、自身のやりたいことに関する価値観の理解不足がある可能性が考えられる。

[問い4] 今後の展開 (どのように進めるか)

相談者が契約社員として働いてきたことを労いながら、今後について迷っていて自分ではどうするか決めることができないと考える相談者の感情を丁寧に傾聴し、相談者が今後のキャリアについて冷静に検討できるように促す。その上で、相談者のホームセンターで働かれてきた経験や、学生時代から当たり前のよう続けてきた舞台でのお芝居の棚卸しを行うことで、今後のキャリアについての価値観を整理して頂き、その理解を深めてもらう。また、上司に正社員の仕事内容についても確認し、両立についても検討してもらう。これらにより、相談者が今後のキャリアを主体的に意思決定できるよう支援する。